

慶應 SFC 学会

(A) 研究成果発表 (学会発表)

B Cell Forum 2025 @Bamberg, Germany

成果報告書

慶應義塾大学環境情報学部 3 年 四宮彩名

学会概要

学 会 名 : B Cell Forum 2025

開 催 場 所 : Bamberg, Germany

開 催 期 間 : 2025 年 3 月 19 日 ~ 21 日

開 催 形 式 : 現地対面

発表タイトル : A trans-omic characterization of metabolic reprogramming underlying differentiation of antibody producing cells

発 表 形 式 : 口頭発表

学会報告

B Cell Forum は免疫系における重要な細胞の一つである B 細胞に関する学術会議であり、2003 年から続く伝統ある学会である。日本国内には B 細胞に特化した学術集会が存在しないため、本会議は B 細胞を扱う研究者にとって貴重なディスカッションの場となっている。本年、私は修士課程・学部生として唯一、口頭発表の機会を得ることができた。その際には、B 細胞を専門とする研究者の方々から鋭い質問や有益な助言をいただき、大変貴重な経験となった。

発表タイトルは「A trans-omic characterization of metabolic reprogramming underlying differentiation of antibody producing cells」であり、抗体産生細胞への分化過程を wet 実験

と dry 解析の双方の手法を駆使して解明するものである。従来、免疫学分野ではマウスやヒト検体を用いた wet 実験が主流であったが、近年ではオミクス解析を活用した dry 解析の重要性が増している。本研究は両者を組み合わせた新しいアプローチを提案し、学会でも免疫学者やバイオインフォマティクから多様なフィードバックを受けることができた。今後、他の学会発表や国際科学論文誌への掲載を予定しており、頂いたアドバイスを活かし、さらなる研究の進展に努めたいと考えている。

ドイツでの学会は、日本の学会と異なり、参加者が朝から夜まで共に行動するという特徴がある。朝食、昼食、夕食、コーヒープレイク、観光などを通じて、研究者同士が交流を深める機会が豊富に提供されていた。私自身、初めての海外渡航と国際学会参加であり、教員の同行もなく、知り合いや日本人の参加者もいない状況であったが、積極的に多くの参加者と交流を図ることで、帰国後も連絡を取り合うことができる友人や研究者とのつながりを得ることができた。

最後に、B 細胞研究に従事する研究者の皆様の前で発表し、貴重な交流の機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。また、本学会への参加費用を支援してくださった慶應 SFC 学会の皆様、日々ご指導いただいている研究室の教員の方々、そして研究グループの皆様に深く感謝いたします。

